

令和 7 年度しょうけい館運営事業計画案

目次

I. 令和7年度しょうけい館運営事業予算	1
II. 運営の基本的考え方	
1. 戦後80年への対応	2
2. 他施設等との連携強化	2
III. 個々の事業についての計画案	
1. 展示関連事業	3
(1) 企画展	3
(2) テーマ別展示	4
(3) 常設展示の見直し	4
(4) 証言映像上映	6
(5) 3館連携企画展	6
2. 資料保存関連事業	7
(1) 資料寄贈	7
(2) 資料の購入	7
3. 教育啓発関連事業	8
(1) 次世代の語り部事業	8
4. 情報センター関連事業	8
(1) データベース・検索システム	8
5. 普及・広報事業	8
(1) ホームページ	8
(2) しょうけい館広報誌	8

I. 令和7年度しょうけい館運営事業予算

	R 6 年度予算	R 7 年度予算案	対前年度比
総額	182,427 千円	194,728 千円	
(内訳)			
運営経費	98,470 千円	98,605 千円	135 千円
人件費等	22,131 千円	22,640 千円	509 千円
管理諸費等	76,339 千円	75,965 千円	△374 千円
事業経費	72,387 千円	83,549 千円	11,162 千円
人件費等	28,086 千円	28,837 千円	751 千円
資料収集等関係費	14,430 千円	13,297 千円	△1,133 千円
展示保守等経費	3,309 千円	3,309 千円	0 千円
運営要員経費	4,200 千円	4,200 千円	0 千円
企画展製作経費(※)	3,468 千円	10,593 千円	7,125 千円
小中学生用展示解説書製作経費	505 千円	253 千円	△252 千円
地方展の開催経費	3,344 千円	3,344 千円	0 千円
若年世代来館促進経費(※)	950 千円	7,191 千円	6,241 千円
資料データベース更新経費	8,124 千円	8,124 千円	0 千円
証言映像収録費	0 千円	0 千円	0 千円
語り部育成事業経費	0 千円	0 千円	0 千円
語り部活動経費	4,696 千円	3,126 千円	△1,570 千円
広報・催事用グッズ作成経費	1,275 千円	1,275 千円	0 千円
消費税	11,570 千円	12,574 千円	1,004 千円

※企画展製作費・若年世代来館促進費には、「戦後 80 年特別企画」や「心の傷展示製作」などが含まれる。

Ⅱ. 運営の基本的考え方

- ・令和 7 年度の事業運営については、「戦後 80 年への対応」と、「他施設等との連携強化」の 2 点に留意した運営を行うことを基本的考え方としています。

1. 戦後 80 年への対応

- ・令和 7 年は戦後 80 年となります。関連の博物館は言うに及ばず、様々な施設や、TV・新聞・雑誌などで、戦後 80 年をテーマとした展示会やイベント、特集記事や番組が計画され、今年春から秋にかけて次々と注目を集めることとなると思われます。

当館においても、収集した情報や資料をもとに、戦後 80 年という時代の流れを戦傷病者とその家族の労苦という視座で概観します。

2. 他施設等との連携強化

- ・関連博物館や地域との連携強化を図り、新施設のさらなる認知向上と、特に若い世代に向けた来館促進策を行っていきます。

Ⅲ. 個々の事業についての計画案

1. 展示関連事業

(1) 企画展

- ・令和7年度は、夏季に戦後80年の特別企画展を開催することとし、年間では以下のサイクルで企画展を実施する計画です。

春の企画展 3月～5月 新企画 展示テーマ「綴られた思い」

戦後80年企画展1 6月～10月 特別展 展示テーマ「水木しげると戦争」

戦後80年企画展2 10月～2月 特別展 展示テーマ「証言映像」

春の企画展 3月～5月 新企画 展示テーマ未定

○春の企画展「綴（つづ）られた思いー戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶ー」

- ・開催期間：令和7年3月4日～6月1日（令和6年度 春の企画展）
- ・戦傷病者やその妻が記した体験記を展示し、戦傷病者の労苦を紹介する企画展を開催します。

○戦後80年企画展1「水木しげると戦争展」

- ・開催期間：令和7年6月～10月
- ・一兵士として水木しげる（武良茂）氏が体験した戦争は、後の漫画作品等のなかに数多く取り上げられています。戦後80年企画展では、水木しげる氏の戦地での様々な体験や受傷、労苦を中心に作品や著作を活用し展示構成します。

○戦後80年企画展2「証言映像総合展」

- ・開催期間：令和7年10月～令和8年2月
- ・開館以来収録を続けた戦傷病者の証言映像記録は約200名に及びます。戦後80年企画展の第2弾では、開館より20年弱にわたって映像で記録した戦傷病者の証言を、戦後80年を機に総覧する企画展を開催します。
- ・館内の次の施設を活用して包括的な展示を行います。

シアター	：約200人名の証言映像の総集編を作成して上映
企画展示室	：代表的な証言者の苦労のパネル展示と義肢などの展示
- ・新たに編集する証言映像総集編の映像内容は、戦傷病者の統計的データも組み込み、受傷部位や戦地から戦後の苦労の種別などを分類して、何人かの代表的な証言記録も交えながら構成する戦傷病者とその家族の労苦の実態をまとめた総集編とします。

○春の企画展 ※企画中

- ・開催期間：令和8年3月～5月

(2) テーマ別展示

- ・常設展示室の奥に新たに設けた収蔵品をテーマごとに展示紹介するコーナーでは、受け入れた資料を選定し、身近なテーマ設定で小規模な展示を定期的に行っています。

1 テーマの展示期間は3か月程度、年間4回を基本にテーマを選定し展示します。

○テーマ別展示1「義肢」

開催期間：令和7年3月～7月

- ・戦傷病者の受傷後の身体を補完した義手、義足などの義肢に加え義眼などの補装具について収蔵品の中から展示、解説する予定です。

○テーマ別展示2「心の傷を負った元兵士の歴史的あらまし」

開催期間：令和7年7月～10月

- ・どのような病気が該当し、どれくらいの兵士が罹患し、罹患した兵士の救護、治療、援護施策がどうなっていたのかなどの概要情報を、常設展示の完成に先駆けパネル展示する予定です。

○テーマ別展示3「援護のあゆみ」

開催期間：令和7年10月～令和8年2月

- ・戦傷病者の援護施策の体系や歴史などを解説するとともに、具体的援護内容などについて関連資料を交えながら展示します。また、民間の援護団体である日本傷痍軍人会の活動の歴史についても紹介する予定です。

○テーマ別展示4「戦傷病者と医療」

開催期間：令和8年2月～令和8年6月

- ・戦地における軍医や衛生兵の役割や、戦場での医薬品の実態など、戦傷病者の生命を救った戦地での医療に関する資料を展示する予定です。

(3) 常設展示の見直し

- ・「心の傷で苦しんだ戦傷病者の労苦」を紹介する展示コーナーを、今年度の調査に基づき以下のような枠組みで新たに設置する計画です。

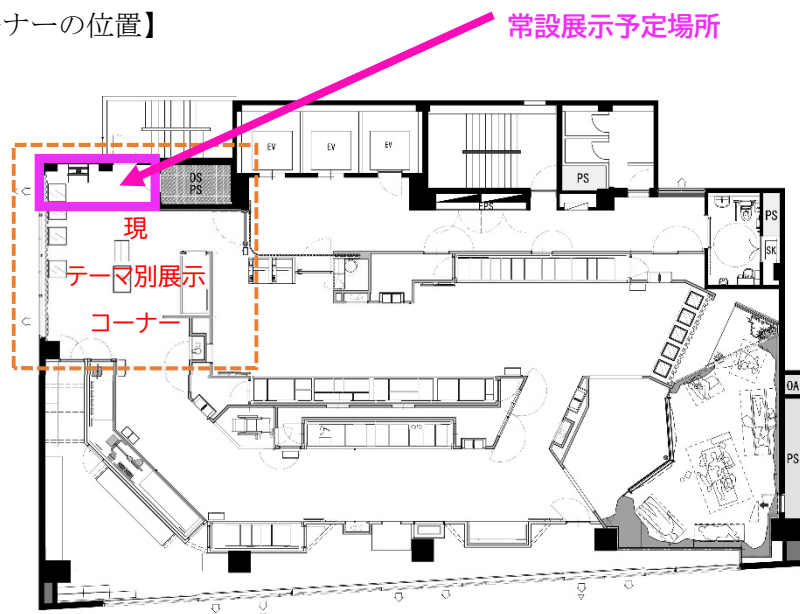
1) 設置場所

- ・3階「テーマ別展示コーナー」の最奥部

2) 展示形体

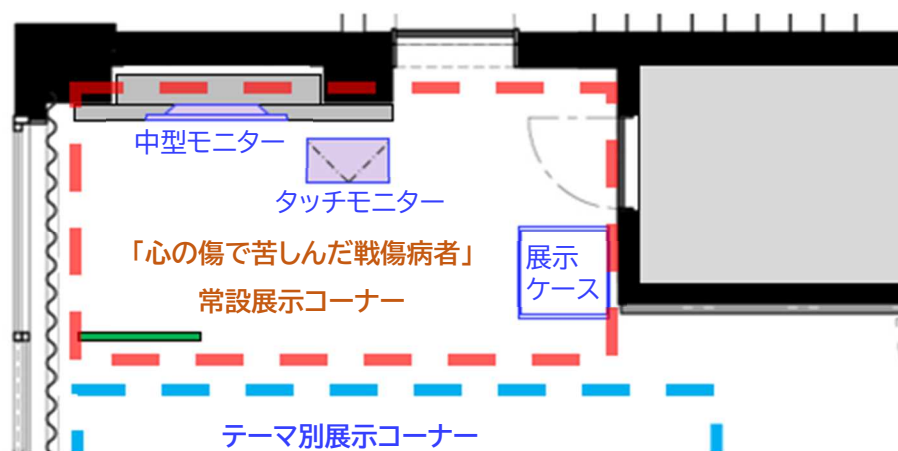
- ・常設展示を基本として、必要に応じテーマ別展示コーナー等での企画展示

【展示コーナーの位置】

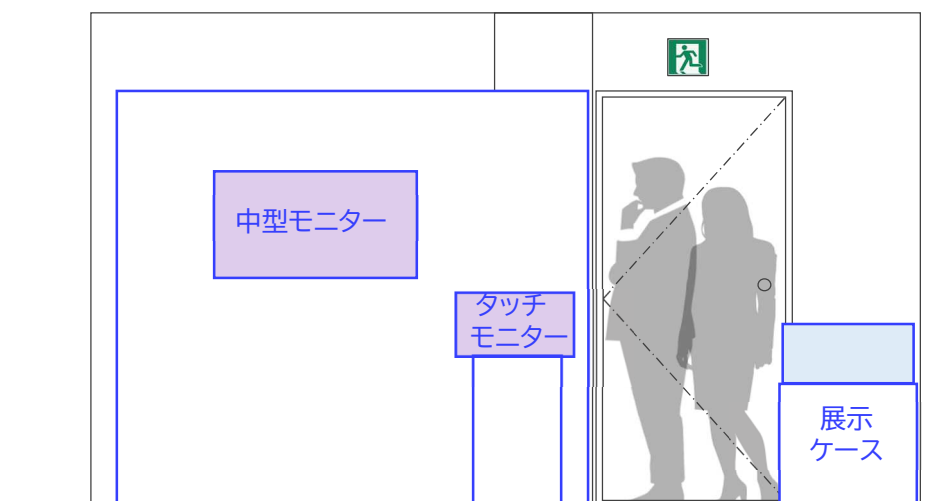


【展示コーナーの構成】

〈コーナー平面図〉



〈コーナー立面図〉



3) 情報内容

- ・展示において、「心の傷」で苦しんだ戦傷病者の個別の労苦それだけを切り取って展示しても、基本的情報を把握していない来館者は適正な理解を得ることに繋がらないため、当時の社会状況や統計情報などによる歴史的な概要情報を提供したうえで、個別の対象者の労苦情報を展示することが必要となると考えます。したがって、本展示コーナーは次の3種類の情報で構成します。

① 「心の傷を負った元兵士の歴史的あらまし」の解説

- ・どのような病気が該当し、どれくらいの兵士が罹患し、罹患した兵士の救護、治療、援護施策がどうなっていたのかなど、当時の心の傷に係る概要を、当時の記録や資料からまとめ展示します。

② 「心の傷を負った戦傷病者」の調査に基づく情報

- ・心の傷を負った戦傷病者の個人の記録を中心に調査に基づきまとめ展示します。

③ 関連の実物（図書、書類など）

- ・関連の図書、書類、実物などを展示します。

4) 工程と展示展開に考え方

- ・本展示（常設展示）の完成時期は、令和8年2月頃となる予定です。
（今後、展示情報の編集、コンテンツ制作、機器や什器の製作、現場工事を実施）
- ・戦後80年にあたる今年は、各所で関連の展示やイベントが行われることとなると思われます。そこで、今年の7月から上記①の「心の傷を負った元兵士の歴史的あらまし」の解説を中心に、3階のテーマ別展示コーナーを使用して、パネル等による簡易な仮設展示を実施することを検討します。

（4）証言映像上映

- ・上述の通り、証言映像をテーマに戦後80年企画展のひとつを実施することを計画しています。その他の期間でも、企画展と連動させるなどしてより効果的に来館者へ伝えるために、理解しやすいテーマで上映プログラムを構成します。

（5）3館連携企画展 「戦傷病者の労苦を伝える 秋田展（仮）」

- ・開催期間：令和7年9月下旬～10月上旬（予定）
開催場所：秋田県立美術館 県民ギャラリー
- ・戦傷病者とその労苦を象徴的に伝える収蔵品を中心に、戦傷病者の労苦にリアルに迫る展示を行い、併せて戦傷病者の証言映像の上映やしょうけい館の紹介も行います。

2. 資料保存関連事業

- ・これまで寄贈された資料について、引き続き画像の撮影や情報の入力確認作業おこない、データベースへの登録を進めていきます。

また、定期的に外部倉庫での管理作業をおこない、燻蒸処理なども実施してまいります。

- ・収蔵資料の活用については、展示のほか、情報検索端末での資料の公開・閲覧を進めていきます。

(1) 資料寄贈

- ・施設の移転にかかわらず、令和6年度も個人等からの資料の寄贈を引き続き積極的に受け付けていく予定です。

- ・令和6年度寄贈資料数（令和7年1月末現在）

実物資料 531 点（寄贈実物資料総数 31,369 点）

図書資料 69 点（寄贈図書総数計 6,993 点）

(2) 資料の購入

- ・戦傷病者に関わりの深い軍医、衛生兵、看護婦や、陸海軍病院関連資料を中心に、企画展及び証言映像などで活用出来るものを適宜購入しています。戦傷病者等労苦継承事業調査検討委員会報告書（平成16年）を参考に購入を検討していきます。

- ・令和6年度購入資料数（令和7年1月末現在）

実物資料 40 点（購入実物資料総数 1,444 点）

図書資料 47 点（購入図書総数 3,643 点）

（収蔵資料数 参考値）

	実物		図書		
	令和6年度 (令和7年1月 末まで)	令和5年度 (累計)	令和6年度 (令和7年1月 末まで)	令和5年度 (累計)	
寄贈	531	(30,838)	69	(6,924)	寄贈資料総数
	31,369		6,993		38,362
購入	40	(1,404)	47	(3,596)	購入資料総数
	1,444		3,643		5,087
	571	(32,242)	116	(10,520)	(総合計)
	実物資料総数 32,813		図書資料総数 10,636		43,449

3. 教育啓発関連事業

(1) 次世代の語り部事業

- ・施設移転後より定期講話会（毎月第2日曜日）を実施し、定期イベントとして定着しました。従って、語り部の講話は、①団体見学者向け講話、②派遣講話、③定期講話会（一般来館者向け）の3種のプログラムとなっており、今年も8月での特別講話会の実施も視野に堅実な活動を継続していきます。
- ・また、語り部の勉強会や、他団体の語り部の方々との意見交換会なども企画し、語り部の技術向上や、知見の深化拡大に寄与できるよう活動していきます。

4. 情報センター関連事業

(1) データベース・検索システム

- ・館のホームページでは、以前より所蔵図書の検索が可能となっています。リニューアルしたホームページでは、図書検索が従来よりもしやすく、画面も見やすい表現に変更しており、今年度もその活用を推進していきます。

5. 普及・広報事業

(1) ホームページ

- ・ホームページは、移転を機にリニューアルし、多様なデバイスでの視聴に対応したレスポンシブルデザインにするとともに、X、フェイスブックのSNSにも対応、展示会や講話会情報の提供をしております。
- ・語り部講話活動などを安定して推進するために、引き続き、講話会の開催情報の提供に加え、様々な館の活動なども発信していくよう、引き続き検討していきます。

(2) しょうけい館広報

- ・旧来の会報から広報誌に変更し、移転後に計3回「しょうけい館通信」を発行しました。
- 令和7年度においてもこの方向で、館の活動紹介などを中心に取り上げ広報機能を強化した紙面づくりをおこない、学校や関連機関などへ幅広く配布していきます。